

提出日：平成22年2月10日

第14 情報リテラシーゼミナール 外部講師によるゼミ実施報告書

鈴木 大輔（東北大学大学院情報科学研究科 教育研究支援者）

場所
情報科学研究科棟 5階 512
日時
2009年10月29日（木）16時～
講師および演題
小林 哲郎 助教（国立情報学研究所 情報社会相関研究系） 携帯電話と社会的ネットワークについての講義および情報提供
参加者
本プログラム担当教員、本プログラム履修生
概要および成果
概要 近年の携帯電話を用いたコミュニケーションに関する研究について講義が行われた。 1) 携帯メールの特徴 <ul style="list-style-type: none">・親密性が高く同質な他者と短いメッセージをやり取りする・2～5人の比較的少ない人数の親しい友人との間で非常に高い頻度で交わされる (必ずしもパーソナル・ネットワーク内のすべての他者との間に等しく生起するわけではない)・文字入力の手が速く短く、移動中、外出中のやり取りが多い など
2) 携帯メール・PCメール利用と寛容性の関係 小林・池田（2004）によると、携帯メールの頻度は「仕事を離れた付き合いのある職場中のグループ」、「習い事や学習のグループ」、「趣味や遊び仲間のグループ」などのインフォーマルなグループへの加入と正の相関が見られたものの、フォーマルな組織への加入や、ある争点を話し合う場への参加、非寛容性については相関が見られなかった。 PCメールでは、フォーマルな組織への加入や、ある争点を話し合う場への参加については、正の相関が見られたものの、非寛容性については負の相関が見られた。このことから、PCメールがより集合的で社会的に広がりのある他者とのコミュニケーションを促進するのに対し、携帯メールは親密で同質性の高い他者との1対1のやり取りに偏ることがわかった。そのため、PCメール

はフォーマルな社会参加を促進する可能性を秘めているのに対し、携帯メールは私的な領域での参加がメインとなっていると考えられる。

また、小林・池田（2007）によると、回答者の主観的な認知のレベルで携帯メール利用からパーソナルネットワークの同質性・異質性に対する因果的効果を示す可能性が示唆されている。

3) パーソナルネットワークの同質性・異質性と寛容性

小林・池田（2007）では、携帯メールの利用によって、パーソナルネットワークの同質性を高めるものの異質性を低め、異なる考えや価値観を持っている他者への寛容性を低下させる効果があることを示した。携帯メールは、家族の安心や親しい友人とのつながりを強化するポジティブな効果をもたらすと同時に（小林・池田 2005）、他者に対する寛容性を低下させる可能性があるとして指摘している。

4) 近い将来・・・

また、携帯メール利用の効果に着目した場合、寛容性の醸成が阻害されれば、有権者となったときにの彼ら自身政治参加が抑制されるだけでなく、こととなる意見を持つ他者の参加をも抑制し、問題として現れてくる可能性がある。

成果

本プログラムでは、携帯電話などのメディア機器が人間にどのような影響を及ぼすのか最新の研究動向を学ぶことができ、非常に有意義な時間だった。今後、携帯電話などの情報モラルの教育コンテンツの開発などを行う上で、役に立つ講義であったといえる。

参考文献

小林哲郎・池田謙一（2005）. メディアの授業とデジタルデバイス 池田謙一（編著） インターネット・コミュニティと日常世界 誠信書房 pp. 67-84.

小林哲郎・池田謙一（2004）. インターネット利用は社会参加を促進するかーPC・携帯電話の社会的利用の比較を通してー 平成 15 年度情報通信学会年報, 39-49.

小林哲郎・池田謙一（2005）. 若年層の社会化過程における携帯メール利用の効果: パーソナル・ネットワークの同質性・異質性と寛容性に注目して 社会心理学研究, 23, 82-94.